| | |
|---|---|
| 事例No. | 1315 |
| 公表年度 | H30 |
| 団体の属性 | 一般市 |
| 団体名 | 北海道夕張市 |

| | |
|---|---|
| 事例区分 | 地域活性化 |

| | |
|---|---|
| タグ | ・関係人口<br>・移住定住<br>・地域運営組織 |

| | |
|---|---|
| 事例種類 | 関係人口 |

事例内容・タイトル

「集まれっ 夕張Likers！」事業

出典

平成30年度「「関係人口」創出事業」モデル事業調査報告書

## 2. 北海道夕張市 「集まれっ 夕張 Likers！」事業（事業パターン（1）①）

### 2.1 地域の特徴・課題と事業のねらい

(1) **地域の特徴**

夕張岳をはじめとする豊かな大自然に囲まれた夕張市は、明治以降、炭鉱開発が進み、国内最大級の炭鉱として発展したまちである。しかし、戦後のエネルギー政策の転換により石炭の需要が減少し、炭鉱の閉山が続き、「炭鉱から観光へ」をキャッチフレーズに観光産業に転換したものの、過大な投資や不適切な財政運営により平成 19 年に財政再建団体となった。

このような状況の中、人口流出による人口減少が進み、平成 30 年には人口が約 8,000 人とピーク時の約 7%となり、町内会活動の停滞などコミュニティの弱体化や、地域の課題解決に活動するプレイヤー不足により、地域の活力の低下が生じてきている。その一方で、財政再生団体に指定されたことにより、自分たちでできることは自分たちで取り組む、という意識が住民の間で浸透しはじめ、住民が地域資源たる人財になりつつある。

(2) **事業のねらい**

1）解決したい地域課題

かつて夕張に暮らしていた夕張出身者とその家族や夕張勤務経験者等の潜在的な関係人口に加え、財政破綻後、地域の再生に取り組む夕張に共感する人々、約 100 年に及ぶ炭都夕張の歴史による産業遺産や文化に共感する人々を、明確に関係人口「夕張 Likers！」として位置づけ、市民とともに人口減少・高齢により顕著に衰退してきたコミュニティの再構築や夕張の歴史・文化の継承への取組に挑戦する。

2）地域課題を将来どのようにしたいか（アウトカム）

市に愛情を持ち、自ら活動する「活動人口」の人々と、夕張に思いを寄せる「関係人口」の方々の知恵や人的ネットワークにより、まちづくり、地域活性化に取り組むことで、新たなまちづくりのカタチを創り上げていく。中長期的には、居心地の良い空間を形成し、継続的にまちづくりに関わりを持ってもらうことで、住民基本台帳上の人口を補完するとともに、将来的に緩やかに移住促進につなげていきたい。

3）前述の地域課題を今年どのようにしたいか（アウトプット）

夕張に思いを寄せる人々に、関係人口創出のためのイベント等に参加いただき、市民と交流を深めることで、夕張の実情、魅力などを再認識いただき、地域課題の解決に向けた学びのきっかけづくりを行い、夕張の新しいまちづくりのカタチや正しい「今」の姿をともに発信いただき、夕張市のイメージを変える。

### 2.2 事業内容

(1) **「関係人口」に対して地域と継続的なつながりを持つために実施した取組内容**

機会の提供のための各種イベントを開催するとともに、「関係人口」であることの証として専用名刺を発行した。機会の提供では、市外の方から活動が共感されている市民団体、NPO 法人あ・りーさだ及び

（一社）清水沢プロジェクト（以下「連携法人」という。）と連携し、前者とは集落コミュニティ再構築、後者とは歴史・文化の継承という二つの観点からの取組を行った。

1）集落コミュニティ再構築（機会の提供）

地域の人と市外の人が共に地域課題を学び、解決に向けた方法を模索する場を創出した。市外の方と市民が交流を深め、夕張や他地域の取組等を学ぶきっかけとする「学交祭」、富士通（株）の教育プログラムを夕張に誘致し、市外の人が夕張の現状を学び、市民とともに課題共有、検討等を行う「Social Connect」、沼ノ沢集落が現在抱える様々な課題について学び地域課題解決に向けた検討を行う「沼ノ沢集落課題検討会議」を開催した。

2）歴史・文化の継承（機会の提供）

廃線となる夕張支線の団体列車を貸切し、鉄道と炭鉱の歴史をテーマにした写真を展示する「夕張の記憶ミュージアム号」、炭鉱の様子を描いた絵画の展示会にて炭鉱町の写真を展示する展覧会「ヤマを伝える」を開催した。また、従前より連携法人が実施していた「清水沢まちあるき」も本事業のツールとして活用し、かつて炭鉱のまちとして栄えた清水沢地区を中心にまちあるきを実施した。

3）「夕張 Likers！」専用名刺の交付（証の発行）

専用ホームページや Facebook を通じて「夕張 Likers！」として登録された市外の方が、市内で開催する上記イベントに参加した際に、夕張市との関わり実感醸成、PR を目的として、専用名刺を作成し、交付した。

4）その他

市が主体となり「ツーリズム EXPO」に出展し、廃線となる夕張支線や夕張の歴史を感じさせる写真展示を実施しながら、「歴史・文化」「集落コミュニティ再構築」をテーマとした市の関係人口創出の取組についてチラシを活用して来場者に PR を実施した。

また、夕張出身者の会である「東京大夕張会」等で本事業の PR を実施した。

(2) **「関係人口」を募る仕組みの詳細**

コミュニティの再構築に向けた法人の取組やイベント等の情報を発信し、関係人口の登録につなげるための専用ホームページと、関係人口の取り込み（登録）及び情報発信用に Facebook を活用して Facebook に専用ページを作成した。Facebook ページでは、「フォロー」又は「いいね」をすると、「夕張 Likers！」として自動的に登録される仕組みとした。Facebook ページの一部は、古き良き夕張の写真を投稿する既存のページを活用して、関係人口の取組であることを加筆し、写真投稿によっても「夕張 Likers！」に登録される仕組みとした。具体的な実施内容は以下のとおり。

〇専用ホームページ「集まれっ夕張 Likers！」の作成と各種情報の発信
（http://city.yubari.lg.jp/yubari_likers/index.html）

〇Facebook ページ「集まれっ夕張 Likers！」の作成と各種情報の発信
（https://www.facebook.com/yubarilikers/）

〇集落コミュニティ再構築をテーマとした個別 Facebook「みんなでたかめる夕張コミュニティ」の作成と各種情報の発信
（https://www.facebook.com/みんなでたかめる夕張コミュニティ- 563322527396976/）

〇歴史・文化の継承をテーマとした既存 Facebook「みんなでつくる夕張の記憶ミュージアム」との連携と

各種情報の発信
（https://www.facebook.com/yubarinokioku/）

(3) **個別事業毎の実施内容**

1）集落コミュニティ再構築関係事業

〇学交祭

沼ノ沢地区の廃校を活用して、地域の課題を学び、地域の人々との交流を深め、継続的に夕張に関わるきっかけづくりとし、期間中のべ約 100 人の方が参加した。参加者のうち「夕張 Likers！」の登録者は 9 人、新規に名刺を交付した方は 9 人であった。

- 夕張「村」キャンプ（8 月 4 日～5 日）：障がいを持つ子どもとその親を対象に、子どもたちが遊びながら、障がいがあってもどのような仕事ができるか、どうすれば夕張の地で自分らしくいられるかなど学び、地域の人と市外の方が交流を深め、継続的な関わりのきっかけづくりとなった。
- 夕張破綻学第一回研究会（8 月 5 日～6 日）：地域の人と市外の方が夕張の破綻や福祉の現状についてともに学び、夕張のためにできることをともに話合った。障がい者就労施設運営事業や農業フィールド提供事業等の案が出された。
- あしたのコミュニティラボ トークイベント（Play から始まるまちづくり）：各地でまちづくりに先進的な取組をしている人々と地域の人々が学び、意見交換等を行い、地域活性化に向けた様々な事例を学ぶ場となった。
- Kids アイディアソン in 夕張（8 月 7 日）：子どもを対象として、東京在住のエンジニアが最新テクノロジーを活用した問題解決方法を学ぶイベントを開催した。
- 北大生と一緒に夏休みの宿題を考えよう！（8 月 7 日）：子どもを対象として、北海道大学の学生がペットボトルロケットを作成し科学を体感するイベントを実施した。

〇Social Connect

富士通（株）の教育プログラムで、大手企業 9 社が参加し、より良い社会に向けた課題等を学び、地域課題に対して地域の人と都市部の人が連携できる事業を検討する取組を夕張市で二回開催し、地域活性化に向けたアイディアが創出できた。

- 11 月 29 日～12 月 1 日開催分：市内外から 14 人（うち「夕張 Likers！」登録者 11 人、名刺交付 11 人）が参加し、参加企業が運営するクラウドファンディングサイトを活用した情報発信、特産品の夕張メロンのビニールハウスに使用するための熱を発生するフィルム等の地域活性化に向けたアイディアが出された。
- 1 月 28 日～1 月 29 日開催分：市内外 12 人（うち「夕張 Likers！」登録者 10 人、名刺交付 5 人）が参加し、地方と都会を遠隔通信で結ぶ手法や、気軽に滞在し農作業が体験できるような会員制メロンハウス等の地域活性化に向けたアイディアが出された。

〇沼ノ沢集落課題検討会議

沼ノ沢地区の様々な課題について、町内会の方等地域の方と夕張に関心のある市外の方が共に学び会い、地域課題解決に向けた知恵を出し合い、検討を行った。計 6 回開催し、現状の課題の確認、テーマ「便利隊」を決めたうえでの課題等の検討、解決方法として自主防災組織について検討と意見交換を行い、自主防災組織規約のたたき台を作成、3 月の町内会で決議することとなった。のべ 120 人が

参加し、うち夕張 Likers 登録者は 61 人だった。

2）歴史・文化の継承関係事業

〇夕張の記憶ミュージアム号

平成 31 年 3 月で廃線となる夕張支線を契機として、夕張や鉄道の歴史に興味を持つ市民と市外の方が同じ列車に乗り、同じ空間を共有しながら、夕張の鉄道の歴史をテーマに語らい、清水沢プロジェクトによる鉄道をテーマにした写真展示を見て、交流を深める場となった。11 月 3 日に開催し、55 人が参加し、うち「夕張 Likers！」登録者は 12 人、名刺交付は 12 人だった。

〇展覧会「ヤマを伝える」

市内に保存されていた炭鉱の様子を描いた絵画を公民館で展示するイベントにおいて、絵画の展示に併せて、炭鉱町としての夕張の歴史、暮らしが感じられる写真展示を行った。のべ約 450 人が参加し、うち夕張 Likers 登録者は 13 人、名刺交付は 4 人だった。

〇清水沢まちあるき

従前より連携法人が実施している取組で、市内外の人々が一緒に夕張市清水沢地区を自分の足で歩きながら地域の歴史を学び、参加者の相互の交流を深めるまちあるきイベントを開催した。清水沢地区を中心に、地域への継続的な関わりのきっかけとなった、のべ 53 人が参加し、うち「夕張 Likers！」登録者はのべ 36 人、名刺交付は 10 人だった。

〇「夕張 Likers！」専用名刺の交付

「夕張 Likers！」に登録された市外の方が、夕張で開催するイベントに参加した場合に、専用名刺を作成し、感謝状とともに交付した。市への関わり実感を持っていただくきっかけとして、また、その関わりや市の取組を広く他の人に周知していただくきっかけとなった。

〇「ツーリズム EXPO」出展

夕張の炭鉱の歴史を来場者に知ってもらう機会として石炭博物館の PR、ブース内に廃線となる夕張支線や夕張の歴史を感じさせる写真を展示し、「歴史・文化」「集落コミュニティ再構築」をテーマとした市の関係人口創出の取組についてチラシを活用して来場者に PR した。夕張市ブースへの来場者は約 1,500 人だった。

## 2.3 成果分析

### (1) 事業参加者に対するアンケート等の結果及び分析

1）イベントの参加者へのアンケート調査

イベントの開催のアンケートでは、イベント参加によって新たな学び、交流の場ができたとして、継続的な関わりへの意向が示された。既に連携法人によって市外の人との関わりを構築している実績もあることから、連携法人の取組を通じて夕張市の現状・歴史等に興味を持っている方が多く関わっていただけたものと思われる。また、JR 夕張支線の廃線を迎え、多くの市外の方が訪れる中、臨時列車イベントを実施し、良好な結果を得ることができた。

大型イベントであった「学交祭」は、参加のきっかけとして知人友人等からの紹介と回答した参加者が多く、開催が専用ホームページや Facebook ページの構築直後であり発信が弱かったと言える。その一

方で、「まちあるき」では過半数が Facebook を見て参加したと回答しており、Facebook での告知に効果があったと考えられる。

### (2) **成果の分析**

全国にいると考えらえる夕張出身者、夕張勤務経験者、夕張ファン等の潜在的な夕張の関係人口を、「夕張が好きな人」=「夕張 Likers！」として明確に位置付け、市外からの視点や夕張市の歴史や文化への興味関心を活用し、地域を活性化する取組のきっかけづくりとなった。本事業の取組にあたり、連携した団体のもつ繋がりを活用でき、関係人口として位置付けられたことに加え、イベント参加者を新たに関係人口として創出することができた。特に、「夕張の記憶ミュージアム号」イベントでは、多数の市民も参加し、廃線を控える中で鉄道にまつわる市民の記憶の掘り起こしにつながり、関係人口の方々の共感を生むなどの交流が生まれたことは、地域の歴史・文化の継承のみならず、地域コミュニティへの興味・関心のきっかけの一つとなると考えられ、さらなる関係人口の創出も期待できるのではないか。

### (3) **今後の取組に向けた課題**

関係人口創出の仕組みとして、運用が手軽でコストも生じない Facebook を活用することは、事業継続性の観点ではそのメリットは大きいと考えられる。しかしながら、集客ツールとしての効果は弱く、イベント開催情報の周知とそこからの参加表明はごくわずかであった。また、人口ピーク時に夕張市に居住し、現在は市外に暮らす多くの夕張関係者の高齢化も進み、Facebook を利用していないなど、当初の想定から実態が乖離しており有効活用ができなかった点は課題である。さらに、Facebook の「フォロー」や「いいね」により関係人口である「夕張 Likers」に自動的に位置付けられるものの、市との関わりの実感を持ってもらうツールである専用名刺は、Facebook を通じてイベント参加を表明した参加者には交付できるが、事前連絡のない飛び入り参加者には交付できないということが生じた。Facebook の活用により効率的に対応できた一方で、参加希望者一人ひとりの専用名刺を制作するという対応には課題を残したともいえる。

今回、夕張市は歴史・文化の継承とコミュニティの再構築という 2 本の柱を立てて取り組んだが、本来両者は別個に立つ並列なものではなく、ベースとして歴史・文化の継承があり、そこに組み込まれた人が、コミュニティの再構築に関わるという、重層的な関係となるべきである。本事業では、沼ノ沢集落課題検討会議といった、地域の課題解決方法を検討する等の地域のコミュニティに入り込んだ取組が行われた。このような取組を広げるためにも、「炭都・夕張」の歴史・文化に興味・関心のある人々を呼び込み、地域コミュニティへどのように入り込ませられるかが継続的で強固なつながりを創り上げるためのキーポイントであり、課題といえよう。